

第 1 回：イントロダクション

1. はじめに：学ぶということ

- ・ 学ぶということ
 - 何を(What)学ぶか？
 - ◇ 時間の中にある
 - ◇ 目に見えることが「目的」である
 - ◇ 量に意味がある
 - ◇ 結果(形)が重要
 - ◇ 自分の外部に答えがある ▶ 他人の価値観に導かれる ▶ 不安
 - ◇ 「しなければならないこと」
 - なぜ(Why)学ぶか？
 - ◇ 時間の概念がない
 - ◇ 目に見えないものに「意味」がある
 - ◇ 質に意味がある
 - ◇ 動機とプロセスが重要
 - ◇ 自分の内部に答えがある ▶ 自分の価値観を見つめる ▶ 自由
 - なぜ、この教室にいるのだろうか？それは誰の選択だろうか？
 - ◇ 「したいこと」
- ・ 学ぶべき3つのこと ▶ (実は、ひとつのこと)
 - ①なぜ学ぶか？
 - ◇ 殆どの学生は、何を学ぶかを知っている、一部の学生はどのように学ぶかもしっている、しかし、なぜ学ぶかを深く考えるものは少数である
 - ◇ あなたが「何を」学ぶかよりも、「なぜ」学ぶかの方がはるかに重要ではないか？
 - ②いま、どう生きるか？
 - ◇ わたしにとって、90分の意味
 - ◇ 自分の20年後を知りたいか？ たったいま90分の使い方を見れば良い ▶ いま寝ている人は、20年後も寝ている可能性が極めて高い
 - ◇ 次のことを考えているあなたは、ここに存在していない ▶ 一時にひとつのこと、「複数の仕事をする」とは、そもそも不可能な概念である
 - ③目に見えないものを捉える
 - ◇ 形は結果に過ぎない ▶ 形を生み出している要素(多くの場合人の心)を理解する
- ・ 自分の(心が)学びたいことを学ぶ：「100人の村」で大学生はたった一人、大人を含め世界の99人がうらやむ存在 ▶ 単位(モノ・成果)のために勉強するべきではない ▶ 勉強の最大の報酬は単位(モノ)ではない、学ぶということ(心)そのものにある ▶ 単位のために勉強をはじめた瞬間に、「しなければならないこと」になる
 - 心から好きなことでなければ成功しない、しかし、好きなことを探に生産性はない ▶ 好きなことが見つからなければ、今やることを好きになる ▶ 好きになれなければ、好きになる方法を考える ▶ 諦めずに探し続ける
 - 授業がつまらないのは、多分貴方のせいではない ▶ しかし、学びを面白くするのは貴方次第

・ **「楽なこと」と「楽しいこと」は、似て非なるもの**

- 「楽しい人生」は「楽な人生」と似て非なるもの。最も厳しい人間関係、最も妥協のない生き方、最も単純な役割、最も純粋な愛、最も辛い仕事…は「楽な人生」ではないかもしれないが、「楽しい人生」を送るための近道かも知れない。
- 多くの人は、好きなことと楽なことを混同している ▶ 楽なことの中から好きなことを探しても見つからない ▶ どんなに辛くても苦にならないこと、があなたの好きなことではないか？

・ **学び方を学ぶ**

- バックミラーとフロントグラス ▶ 「大学で学んだこと(バックミラー)は何も役に立たない」という人がいるが、当然である ▶ 大学に限らず、社会は、(学生時代に)学んだことで仕事が成り立つほど、甘くない ▶ 大学は「学び方(フロントグラス)を学ぶ」場所である
- 「学び方を学ぶ」とは、知らない分野に飛び込んで成果を上げること ▶ 永遠の素人として生きるということ ▶ 残りの人生で無限の学習が可能になる
- 講義の内容を疑うべき、講義の内容が「正しい」と考えないように
 - ◇ 権威を疑う ▶ 事実として、過去の常識の多くは誤りである ▶ 逆に、権威の目的は、あなたにあなたの頭で考えさせないことにある
 - ◇ あなただったらどうする？あなただったらどう考える？
 - ◇ 間違っていようといまいと、自分の結論を出しながら進む(人生と同じ)
- 知識を得るのではなく、考え方を学ぶ ▶ 成果を上げることよりも、失敗を恐れない心を鍛える
- 「考えること」、「自分の言葉で語ること」、「意見を恐れずに口にすること」、「自分の意見を行動に移すこと」

・ **鏡を見つめる：**

- 人の意見を聞いて、鏡(自分)を見つめる、自分自身を知る
- 多くの人にとって、最も怒りを感じることは、自分についての真実である ▶ 真実を避けるか？真実に向き合うか？
- 自分の問題を直視することと、肯定的である(受け入れる)ということ、は矛盾しない ▶ ありのままを受け入れるということ

・ **立体的に考える**

- 現実世界は「ルービックキューブ」 ▶ 立体的に考える、立体的に学ぶ
 - ◇ 世界をルービックキューブ(生態系)として捉えてみる ▶ 一面だけの解を求めると、必ず他の面に影響を与える(多くの場合、新たな問題を生み出してしまう) ▶ 現実社会において、部分最適は必ずしも全体を最適化しない
 - ◇ 因果関係は、複雑系の中で立体的に繋がっている
 - 911の事例
 - コザ再生のヒント
- 繰り返しの重要性 ▶ 立方体は、一つの面が複数の面と隣り合っている ▶ 立体感を捉える過程では、同じ要素が繰り返し登場する
 - ◇ 中学生の頃読んだ本を読み返すと、全く違って感じられる ▶ 同じ本から全く異なることを二度学ぶ ▶ 知識ではなく、発想、思考、知恵を学ぶときの大きな特徴

2. 私の全講義に共通する目的 ▶ 沖縄再生

- ・ あなたは明日の沖縄をどうするか？
 - 講義の明確な目的 ▶ 沖縄再生のための、飛躍的、合理的、科学的な事業計画の構想と検証
 - ◇ 私は大学時代、先生に目的を問い正してゼミから破門された経験があるが、その考え方は今も同じ ▶ おもしろいだけの学問は意味がない、学問は実行してこそ意味がある、学問は社会を良くするためにある ▶ そして、あなたとあなたの大切な人の人生をよりよいものにするためにある
 - 私が定義する観光学とは、地域(沖縄)再生学である
 - ◇ 産業(観光収入)としての観光、質としての観光、雇用としての観光
 - ◇ 一般的な観光学の講義とは異なる ▶ 観光に関する知識を学ぶ機会ではない ▶ 沖縄の将来に寄与する人材になるための行動学である
 - 地域再生とは、自立経済、豊かな生活(収入と時間)、共同体 ▶ これらを実現することが一義
 - ◇ その方法として、沖縄においては観光が最右翼、という順番(地域再生の手段として観光が相応しくない地域もある)
 - ◇ 観光をどうするか？の講義ではない。社会をどうするかが最大の問題 ▶ この順番は観光学が社会に役に立つための必然である
 - 「国際観光入門」は国際観光についての講義ではない ▶ 沖縄を国際観光地とするために必要な要素を議論する講義である
- ・ 地域再生の視点から観光を捉える ▶ エコだけを考えるなら、何もしない方がよい ▶ 経済効果とのバランスにおいて考える、地域・産業・社会再生論である
 - 沖縄の将来を支える観光産業は、沖縄県の経済規模4兆円のうち、波及効果を合わせて1兆円を占める(観光収入は4000億円)
 - 沖縄の現状と課題 (▶ 基地経済は「観光経営論」に譲る)
- ・ 観光地沖縄の持続的発展
 - 短期間(とはいえ、それが数十年継続することもある)の成功は、誰でも実現できる
 - 沖縄観光は、持続性があるだろうか？ ▶ 持続性を生むために、どうすれば良いだろうか？
 - 沖縄に本物(一流)を生み出すために、何ができるか？どうするか？

3. 課題と評価

- ・ 主体性を発揮する
 - 時間の使い方に責任を持つ：本講義に「遅刻」「早退」という概念はない ▶ 遅刻したければ、退席したければ、ペナルティはない ▶ 緩い運用が目的ではない、あなたが、ここにいる理由を、自分自身で決めるための環境づくりである
 - 私は、寝ているもの(あるいは私語をしているもの)を注意することもしない
 - ◇ これは、寝ていることをよしとするからではない ▶ 自分の人生の90分を、主体性なくどぶに捨てることには、何の価値もない ▶ 寝るならば、主体性を発揮して最善の環境で眠るべき ▶ 私の授業からいつ退席しても構わないのはこの理由による
 - ◇ だからといって、誰かに注意されて起きている状態が良いとも思わない ▶ (他人に注意される)子供として起きていたいのか？(主体性を発揮する)大人として起きていたいのか？
 - ◇ あなたが、自分の人生に主体性を持ち、寝ることのばからしさ、90分を主体性なくドブに捨てることの愚かしさを理解し、行動に移せるようになることが学びの本質である ▶ その学びのためであれば、私は何回でも機会を提供する
 - 「講義が面白いから起きている」ことにも、本質的な学びはない ▶ 面白くなければ寝るのだろうか？ ▶ 結局主体性なく生きていることに違いはない ▶ その講義がどのようなものであれ、人生の90分に全力を尽くす生き方にこそ意味がある(逆に、私の場合、例えばたった一人でも起きている学生がいれば、全力で授業を行う、ということ)
- ・ 「トリニティアップデート」→「沖縄大学」→「2013年前期」の「履修について」を必ず参照のこと
- ・ 講義が最も重要、出席重視 ▶ 3回欠席で不可となる(公欠、履修登録期間を含む)
- ・ 基本的に知識は二次的なもの ▶ 考える、自分の言葉でしゃべる(書く)、自分で感じる、境界を越える
- ・ ホテルを利用してのレポート(考え中)、期末テストは予定しない ▶ トリニティアップデートに掲載
- ・ 講義メモは「トリニティアップデート」にアップする